

平成26年第10回
上小阿仁村議会定例会
会 議 録

平成26年12月16日（開会）

平成26年12月18日（閉会）

○議長（小林信） 次に、7番 伊藤敏夫君の発言を許します。7番、伊藤敏夫君。

（7番 伊藤敏夫議員 一般質問席登壇）

○7番（伊藤敏夫） 私の質問は2点ありますが、1点目のまち、ひと、しごと、地方創生の取り組みについて質問させていただきます。

我が村の人口は、10月末現在で2576人ですが、年々減少し続けている現状であります。

人口減少問題は、我が村のみの問題ではなく、秋田県全体においても過去3年のデータでは25市町村全てが、人口が減少しているということであります。県内の市町村で減少率が一番高いのは、先般の新聞でありますけれども藤里町が3.23%で、ついで我が村の3.00%となっております。

若い人が、どんどん少なくなり減少率が進むことは自治体経営すら成り立たなくなることを消滅可能性自治体というそうではありますが、そう言われぬように早めの策を講じて進まなければならないものだというふうに考えております。

国は、少子高齢化に伴う人口の減少に歯止めをかけるとともに東京圏への人口集中を是正し、地方のまち、ひと、しごとを創生することを目的とする政策の地方創生関連2法案が前月の11月21日可決、成立しております。

政府は、衆院選挙後にまとめるとしていますが、総合戦略に沿った地方版総合戦略を策定した自治体に対し、自由度の高い交付金を支給する仕組みを検討するということでもあります。

我が村にとっては最も重要なことであり、村の将来を考えますと村を上げて知恵を出し合い取り組む体制を整える必要があると感じております。

この地方創生について提言されている方は、地方の現在と将来にとって何が必要か、地域が本当に必要とするものはなにか、まずは自治体が住民と一緒にじっくり考えることから始めなければならないと言っております。

県内市町村も、この取り組みについて、すでに取り掛かっているところもあるようではありますが、国の戦略内容が明らかに示されておりませんが、我が村として住民の意見を集約し、それらを基に企画立案を早めに策定しておくべきと思うのでありますが、村長のお考えをお聞きいたしたい思います。よろしく申し上げます。

○議長（小林信） はい、村長。

（中田吉穂村長 登壇）

○村長（中田吉穂） 伊藤議員のまち、ひと、しごと、地方創生の取り組みについてということで、伊藤議員の考え方の一部を述べていただきまして、ありがとうございます。

この地方創生というのは、この選挙間近といいますか、関連法案は解散間近に慌てて成立したわけですけれども、その中身というのは、これから5年間かけて、その地域をどうするのかということを経験の方々と一緒になって考えていきたいと、そして、その考え方をキチットやっぱり出してもらうというのが、この地方の創生の基になるというふうに私は思っております。

全国の自治体で896の市町村が消滅するという、この日本創生会議の将来予測のショッキングな数字が出たわけですけれども、その中で、秋田県では大湯村以外は、全てが人口減少ということで、大変な事態がおきるのではないのかなという予測であります。これは、20歳から39歳までの若年女性、要するに子どもが生まれる年齢の数が50%以上減少した地域は、存続できないのだというふうな予測数字でありまして、上小阿仁村の2040年、つまり25年、26年先の数字は人口が1164人、若年女性が47人という、こういう厳しい数字の予測となっております。

こうした予測を何もしないで黙っているわけにはいかないのだと、やはり、国土の5割を3%の住民が守っているのだというふうに言われております。地域を守るそういう取り組みがようやく国の方でも真剣になって取り組んでいこうというふうな地方創生の意気込みですので、これに、我々も何とかしてこの地域の過疎を引き止めれば、若者が定住する地域づくりをできれば一番いいのかなというふうな思っております。

多分、改選後の内閣で、この法律の中身が出てくると思います。また、そういった国の政策に我々も期待をしながら、地域の創生は、我々自らが決めると、我々が頑張っていくのだと、そういう決意をもって、創意工夫、知恵を搾り出してやっていかなければならない、そういう思いで、今、これから先取り組んでいかねばならないという思いでおります。

今のままでいきますと、やはり、どんどん高齢化が進んでいきますし、また、子どもの数も減っていくし、そして、今日の皆さんの一般質問にもありましたように、後継者という方々もなかなか生まれてこないということで、議会も行政も一体となって、この地域をどうするのかと、住民を交えて、これから計画練り直していくというふうに、私は考えておりますので、どうか、一人だけ、我々だけ、村長だけが、これに立ち向かってできるわけではございませんので、どうか、皆さんのご意見、ご指導を得ながら頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく願いをいたします。

○議長（小林信） はい、伊藤敏夫君。

○7番（伊藤敏夫） ご答弁ありがとうございます。

確かに、今すぐあれをやれ、これをやれということではなく、前向きな状態の中において物事というものは、順序を踏まなければならないというふうに考

えておるところでありますし、いろんな角度の中において、前にもふるさと納税の話もいたしました。今年の11月1日、関東上小阿仁会の懇親の後にある会員の方と話をする機会があったわけですが、ふるさと納税についてのお礼の挨拶、言葉みたいなものが、村長から欲しかったなど、こういうような意見も出ております。

そういうようなものについての心配りと言いますか、些細なことのようにありますけれども、非常に大きい問題であります。そういう力が、村民の中には、そう簡単にはないわけでありまして、都会にでている人がそういう意味で帰るまではいかないけれども、ふるさと納税でもしてみようかというのが、考えを我々よりもずっとあるわけでありまして、そういうような心配りというものも必要なものでないのかなというふうに感じ取ってきたところがあります。

それから、こういうようなものについては、質問の中にもあったわけですが、ただ、プロジェクトとか、立ち上げてありますけれども、人口問題について検討するということでありまして、有識者だけで集まるのではなくて、行政協力員というような集落会長もおるわけでありまして、集落の会長は、集落の内容については十分把握されて現状を踏まえておるわけでありまして、そういう方々についての意見を合わせながら、ぜひひとつ、この件については大きな問題のひとつとして捉えていただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

これについては、先ほどの村長の答弁でありましたように、検討しながら前向きに進んでいくということですから、答弁はおりません。まず1つ目の質問事項については以上であります。

○議長（小林信） はい、伊藤敏夫君。

○7番（伊藤敏夫） 2点目についてであります。

来春、改選期に向けての村長の考えについて聞きたいと思っております。

村長も議会議員も、来春は改選期を迎えますけれども、初めて村長として村の舵取りを行って来て現在に至っております。この間、体調を崩され入院を余儀なくされましたが、今は非常に元気の様子で何よりと思っておるところであります。

これまでの職務の中でやりたかったけれども、なしきれなかったことや、今後、これについては村として絶対やっていかなければならないのだというような思いもあることと思っておりますので、そのことについてまずお尋ねしたいと思います。

それからもうひとつでありますけれども、改選期に向けての進退についての考えをお聞かせいただければありがたいと思っております。

よろしく願いいたします。

○議長（小林信） はい、村長。

（中田吉穂村長 登壇）

○村長（中田吉穂） 来春の村長選に向けての考え方を問われているというふうに思います。

早いもので、もう4年になると、この春が来ますと4年になるということで、大変月日の流れが早いなというふうに、今感じております。しかし、私は一番この中で苦労したのは、医療の問題であります。病院の先生の問題が何よりも大事であるし、何よりも苦労しました。この点においては変わるものが誰もいないということで、あっちこっち走り回りながら、何とかして村民の医療を守りたいという思いでやってまいりました。いろいろ問題もあったわけですが、でも、今このように1年間だけでも安心して村の事業にとりかかれたなというふうに、今、思っております。

それまでは、なかなかそういった状況にいかなかったということで、あれもやりたい、これもやりたいと思ってきたわけですが、私のその選挙公約というのはスクラムという公約を組んだわけですが、仕事で住みやすい、暮らしやすい、そして楽しい楽な、そういう村にしたいというふうなスクラムというキャッチフレーズをもって、4年前の選挙は戦いました。

そして、沢山の方々のご支援をいただいて当選することもできましたし、しかし、かといって物事が全てできたかなと振り返ってみますと、なかなかそういうわけにはいかないし、できていないのだなと、私は自分では55点ぐらいしか点数がつけられないのかなというふうに考えております。

もっともっと、自分が先頭に立ってやれることがあったのではないのかなと思いますけれども、現実には、なかなか村長だけが空回りしても、物事は動かないということが、だんだん時がたつにつれて自覚がされてきたと思っております。これから、村がどういう方向でいくのかということは、この次の改選に向けて、私は公約としていきたいなと、もちろん、今1期でやめるつもりはありませんし、それは村民とっても責任の放棄であるというふうに、私は考えております。最初から2期は絶対やるのだという思いでできたので、責任を放棄するわけにはいかないというふうに考えております。

ただ、体調が一時壊れまして、皆さんに大変心配をおかけしましたがけれども、現状は、まずこのとおり元気いっぱいになっておりますので、余り心配かけなくてもいいのかなというふうに思っております。

これから上小阿仁村がどういうふうに、何を施策としてやっていかなければいけないかと、まず、私は50%超えている高齢者を何とか安心して暮らせる村にしたいということで、先ほどもお話させていただきましたが、独居老人とか、

そういう方々の共同生活ができる住宅を、何とかしてやりたいと、そう思っております。これは議員の皆さんとも相談しながら何棟か、各集落の中に建てて、空き家があれば、それを改築するとか、寄付を受ければ、それを改築しながらやっていけるのだと、その地域において地域の人方が2人、3人一緒になって暮らしていくのだと、よい人を助けながらやっていく。もう行政も当然保健センターとか、そういうところでも支援をしていくというふうなシステムをできないかなというふうに考えております。

あと、逆に若い人方にも子育てに専念できるような、低家賃の住宅も必要かなと思っておりますし、それと同時に、子育ての方々、私は、この前の時も考えたのですが、高校生に定期分を補助したいと思いましたが、残念ながらバス通学している方が少ないということで、第3子以降の子ども達、これを育英支給制度といいまして、毎月、高校生に補助していきたいなど、そういうふうな形で村が第3子以降の子ども達は、村が関わって一生懸命家庭の負担を防いでいくというふうな取り組みを考えたいなど、これを選挙の公約にしながら、私はやっていきたいと、そういうふうに思っております。

これは、子宝祝金で100万円やったお金があれば3年間できるわけです。ですから、それを今度からは少子化対策としてやっていきたいと思っております。これまた、1人でできるわけではありませんけれども、皆様のご協力を得られれば、そういうことも可能かなと思っております。

あと仕事関係、これがこの村にとって一番大事なことなのですが、なかなかそこに手がつけられないできたということで、地域資源を活用するプロジェクトみたいなものを立ち上げて、この地域にある資源をどうやったら有効に活用できるのか、これを村の人方皆で考えて、そして、それをひとつずつやっていくのだ、そういう形で地域の活性化を目指していきたいなど、我が村に企業誘致とか、そういったことをやっても今の状況では働く人がいないのです。もう空いている人がいないというふうな状況でありますので、いる人方でどんなことを頑張っていけるか、そして自分の後継者を自分方決めていくのです。自分方の後継者を自分方の家族の中から選んで作っていくという方向をキチットとしなければ、私はなかなかこの地域が自立していくことは難しいのではないかなと思います。

そういった意味で、今日は、次の改選には一生懸命やる気をもって、村を良くするための施策を考えながら頑張っていきたいと思っておりますので、議員の皆様のご理解も、よろしくお願い申し上げます。

以上です。

○議長（小林信） はい、伊藤敏夫君。

○7番（伊藤敏夫） 答弁ありがとうございました。

非常に前向きな状態の中においてのご答弁いただきました。やはり、確かに村内の中においては働く人もいないからというような心配も当然あるわけでありませうけれども、先ほど関東上小阿仁会の話いただきましたが、ふるさとへ帰ってきたいという人も、私はいると思っています。そのPRが足りないがために、帰っていても別に働くということの経済的な面の考えの人でなくても、こちらに方に帰ってきたいのだと、そうすると何をやればいかと、ただ山に山菜を取りに行っただけでは面白くないと、何か自分のやりがいのある仕事をしたいのだというのであれば、この地域資源という話、先ほどされまして、私はやはり、そういう山の地域でも難しい仕事については、本職の人に任せて或いはその指導してもらいながらでも、そういう生きがいというようなものが、何かあるのではないかなと、常に私はそういうふうに思っております。

それから、関東上小阿仁会で、議員と皆と或いは関東上小阿仁会の会員の皆さんと、懇親会では一緒になるのですけれども、役員の皆さんと話し合いたいというのは、そういう意気込みで話してきたつもりでありますけれども、その情報は、村の情報はどんどん出して或いはこういう考えもあるのだというものをどんどん出していくことによって、道が開けるか開けないかは、それは名言できないわけでありませうけれども、動きをすることによって違いがでてくるのではないのかなというふう感じ取っております。

今、この場で、この上小阿仁村をよりよくするためには、こうする。ああするといっても、ひとつもそれについては語っているものがあるわけでありませうけれども、可能性としては、1つ、2つの問題が、別の角度の中から出てくるかもしれません。そういうような意気込みで、せひひとつ、頑張っていきたいものだなというふうに思いますので、村長の考え、非常に前向きにお答えいただきましたので、感謝申し上げたいと思います。

そういうような形で、この村を発奮しながら皆を引っ張っていきながら、ぜひ、大きな意味でやることも重要でしょうけれども、心配りがやはりなんだかんだといったって大事だと思いますので、人の力を借りながらやるというものをぜひ全面に打ち出しながら自分に言い聞かせながらぜひ行動していただければ有り難いなというふうに思っております。

以上で、私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございます。

○議長（小林信） これで一般質問を終わります。

○議長（小林信） ここで 10 分間の休憩をさせていただきます。再開は 4 時 43 分とさせていただきます。

○議長（小林信） 暫時、休憩します。

16 時 34 分 休憩